

この伝説の中心となっている5人のいたずら好きの生き物は、中国の皇帝である漢の武帝（紀元前156-87）から男鹿にもたらされたものです。同皇帝のしもべとして働くよう派遣された鬼たち（人食い鬼のような生き物で、聖なる存在と見なされている）は、毎日疲れ知らずに働きましたが、1年のうち1日だけは村に入ることを許されました。この機会を活かしきって、鬼たちは作物を盗んだり、住民の娘たちをさらったり、その他ありとあらゆる問題を起こしました。鬼たちの悪事を我慢できなくなった人々は、鬼たちと賭けに出ることにしました。力を示したければ村から山の中腹にある赤神神社まで1,000段の石段を1晩で作るよう命じ、それに失敗すれば、金輪際村には現れてはならないと伝えたのです。

鬼たちは日の出のかなり前に石段の999段を作ることに成功しましたが、その瞬間予期せぬ事態が起こりました。地元のひねくれ者が、雄鶏の朝の鳴き声を真似て、鬼たちに賭けに負けたと勘違いさせたのです。鬼たちは山に逃げ去り、戻ってくることはありませんでした。しかし入念な性格の鬼たちならいつか騙されたことに対して復讐しようとしてくるのではないかと心配した村人たちは、山々とそこに住み始めた彼らをなだめる方法考え出しました。毎年、地元の若者が扮した鬼たちを宴に招くというものです。